

神戸研究学園都市大学交流推進協議会

# UNITY（ユニティ）20周年記念誌



## 加盟大学

神戸芸術工科大学・神戸市外国語大学  
兵庫県立大学 神戸商科キャンパス・流通科学大学  
神戸市立工業高等専門学校・神戸市看護大学  
(準会員) 兵庫県立大学 明石看護キャンパス



神戸研究学園都市大学交流推進協議会

## UNITY (ユニティ) 20周年記念誌





神戸研究学園都市大学交流推進協議会 理事長  
神戸市外国語大学 学長

## 指 昭博

神戸研究学園都市が誕生し、ユニバーシアード神戸大会が開催された昭和60年、「神戸研究学園都市5大学協議会」が発足しました。さらに平成2年4月に5大学の移転・開学が完了したのを機に「神戸研究学園都市大学連絡協議会」への改組を行いました。その設置の目的は、加盟大学に共通する課題等について協議、研究、連絡、調整及びその実施を図ることにより集積の利点を最大限に活用し、加盟大学の発展、向上に寄与することでした。

同協議会は、平成4年3月に大学共同利用施設の設置に関して神戸市長に要望を行い、その後、阪神・淡路大震災により計画は一時凍結されましたが、大学からの強い要望もあったことから平成9年6月に着工に至り、平成11年3月25日に「ユニバープラザ」内に大学共同利用施設「ユニティ」が完成オープンしました。その完成に先立ち、平成10年5月にユニティにおける各種の事業を円滑に運営するための組織として「神戸研究学園都市大学交流センター推進協議会」を設立し、その後、平成18年4月にこれらの両協議会を「神戸研究学園都市大学交流推進協議会」に統合し、現在に至っています。

このような推移を経て、ユニティは今年で20周年を迎えることができました。この間にお世話になりました関係者の皆様方の温かいご支援・ご協力には、心から感謝の意を表したいと存じます。

ユニティでは、(1) 加盟大学の教育の充実 (2) 学生・教員・大学の交流 (3) 高大連携講座の取組み (4) 大学と地域の連携と交流の4つを活動の基本に捉えて数々の事業を展開してきました。

具体的には、他大学の学生に加盟各大学が大学独自の特色ある科目を提供する「単位互換講

座」、その単位互換講座科目の一部を高校生に開放し、高校生の学習機会の拡大と進路に関する情報提供を推進する「高大連携講座」、市民の生涯学習のための「公開講座」や「語学講座」などを開講し、多くの参加者を得ております。近年その重要性が強調される高大連携や社会人の学び直しをいち早く実践してきたことはユニティの先見性と自負するところです。また、加盟大学における図書館相互利用の運営や「神戸中国帰国者日本語教育ボランティア協会」などのボランティア活動の拠点としても積極的な役割を担い、大きな成果をあげております。さらに平成28年度からUNIVER祭に出演・出展する学生団体への助成制度の創設、平成30年度から公募の加盟大学教員の企画による「特別公開講座」の開講等の新規事業を実施しています。

近年、大学を取り巻く環境が厳しさを増す一方で、国際化への対応や社会人を対象としたリカレント教育の推進など地域社会における大学への社会的ニーズは増えてきております。今後ともユニティでは、加盟大学の連携強化により総合・相乗効果を高めて、学生・教員・大学のための諸事業を推進するとともに、社会のニーズを的確に把握しながら、地域社会との連携を強化してまいりたいと考えておりますので、これまで以上のご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



### 祝辞



兵庫県知事

## 井戸 敏三

ユニティが開設20周年を迎えられました。心からお喜びします。

神戸研究学園都市にキャンパスを持つ5つの大学、1つの高等専門学校が、ともに教育・研究の充実、学生の多様なニーズへの対応等に取り組むべく、平成11年、「ユニティ」が開設されました。以来、知の集積のメリットを生かして、単位互換講座や教員による共同研究、地域に開かれた文化講座・語学講座など、様々な事業を展開し、学術文化の交流拠点として教員・学生・地域住民の皆さんに親しまれてきました。運営に尽力してこられた関係の皆様へ改めて感謝します。

この20年の間にも社会は大きく変化しました。人口減少・少子高齢化が進展する一方で、情報通信技術の発達が人・モノ・情報の交流を飛躍的に広げ、また、人工知能などの科学技術が私たちの暮らしや経済を急速に変えています。

先端技術を駆使して未来を切り拓く人材、世界を舞台に活躍する人材、新たな価値を生み出し地域課題を解決に導く人材。教育機関には、変化の激しい時代を生き抜くこうした人材の育成が求められているのではないのでしょうか。

このようななか、本県は、地域と世界で活躍できる人づくりを進めています。兵庫県立大学では、今年4月に国際商経学部と社会情報科学部を、9月には国際学生寮と国際交流センターを開設し、世界から留学生を受け入れ、グローバル人材の育成を図っています。また、文化・観光分野において世界につながる新たな価値を創造できる人材を育成するため、但馬地域で県立の「国際観光芸術専門職大学(仮称)」設立に取り組んでいます。

次代を担う人づくりはもちろんのこと、「知の拠点」である大学には、先導的・創造的な研究の推進、地域の未来の活力創出など、幅広い役

割が期待されています。それに応えるためには、それぞれの大学がもつ個性や特色を伸ばしながら、互いに連携を強め、学生、社会、産業界のニーズに応じていくことが大切です。

大学間連携の先駆けともいえるユニティを運営してこられた皆様には、特色豊かな魅力ある大学づくりに励まれるとともに、これまで培った信頼のネットワークを礎に、今後も6大学・高専が一体となって活発な活動を展開され、兵庫の教育・研究の充実を先導いただくことを期待します。

ユニティ及び加盟大学・高等専門学校の一層のご発展と、関係の皆様のご健勝でのますますのご活躍を心からお祈りします。

## UNITY 20周年を祝して



神戸市長

久元 喜造

ユニティ開設20周年おめでとうございます。

神戸市は、24もの大学・短期大学・高専に約7万人の学生が集う全国屈指の大学都市です。

市内の大学では、行政との協働により子育て支援を行う、学生が地域の方々とともにまちの美化活動や商店街の活性化に取り組むなど、さまざまな活動が行われています。

このような取り組みをさらに広げ、「大学等」と「地域」、「産業界」、「行政」の連携に関する神戸市のワンストップ窓口を企画調整局内に設置しており、大学等が持つ優れた知的資源や学生のパワーを地域活性化等に活かしていくための提案やアイデアの創発を目的として、市域内に本部がある大学等の学長・校長と市長との懇談会を毎年開催しています。

半径1キロの徒歩圏内にキャンパスが集積する神戸研究学園都市の核となる施設であるユニティは、平成11年に加盟校間の連携推進、さらに地域とのコミュニケーションの拠点として誕生しました。開設当時から5大学1高専が加盟する大学コンソーシアムのパイオニアとなるケースとして注目されました。因みにUNITYには「まとめ、調和」の意味があります。

具体的な取組みとしては、「加盟大学の教育の充実」として単位互換講座の開講、「学生・教員・大学の交流」として大学教員の共同研究交流、「高大連携講座」の開講、「大学と地域との連携・交流」として公開講座の開講や市民のコミュニティの場の提供などが実施され、その活動は高く評価されています。「知」の集積する神戸研究学園都市は、教員・学生が市民と自由に交流することで、社会の要請に応じた学術・教育のレベルアップはもちろん、地域の文化や生活の向上を目指しています。

このように地域、大学、行政が協働して取組

むことが、魅力ある神戸のまちづくりにつながっていきます。

今後とも、ユニティ加盟の各大学・高専がユニティを通じて一層連携を深め、それぞれの教育研究活動の向上を図るとともに、神戸市のまちの魅力向上に資するため、引き続きご支援・ご協力いただきますようお願い申し上げます。

**20周年を迎えて**



20周年を迎えて

## 『UNITYの未来』

神戸芸術工科大学 学長

齊木 崇人



神戸研究学園都市に立地する5大学1高専の単位互換講座や地域社会への貢献を目指した連携が開始され、早くも20年を経たことを皆様とともに喜び申し上げます。

この20年間、私たちはUNITYで経験した時代の様々な動きに鋭敏に反応しながら活動してきました。とくに1995年に発生した阪神淡路大震災後の震災復興事業や、地域社会の課題解決など、UNITYが展開してきた大学連携、地域貢献、産学連携、高大連携に加えて、地域社会を担う次世代の人材を育成する新しいステージが求められていると実感しています。

私たちのUNITYは、1979年の神戸研究学園都市基本計画調査（神戸市）の発表直後の準備期間を含めると、約40年の歴史があります。20年前にUNITYに編成されそれぞれの大学は個性を発揮し、大学の役割は果たせたと思いますが、これからの課題として、UNITYのブランド力の向上を目指し、5大学1高専の連携効果を価値化させることが求められます。

具体的には、UNITYの次の10年の発展を目指して、連携大学から（仮称）UNITY連合大学を構想し、基礎教育カリキュラムの共有化や、学生の図書館、食堂、課外活動などの連携支援、大学の知を提供するUNITYカルチャースクール（有償）や地域貢献などの収益事業、その収益をUNITY基金として学生の経済支援や地域活動支援を還元する時がきています。加えて、これからのUNITYの活動としては、大学連携、地域連携、産学連携、国際連携の4つのテーマを同時に展開し、日本のまたはアジアや世界の大学に情報発信したいと思います。

UNITYはこれからも変わらず、地域社会の要求に効率よく反応し、活力あるさまざまな人材の起業を支援しなければならないと思います。そして何よりも神戸の150年歴史と、この学園都市と5大学1高専への誇りをしっかり共有し、世界の未来に貢献できる高等教育拠点の役割を担っていききたいと思います。

## 『UNITY20 周年を迎えて』

兵庫県立大学 学長

太田 勲



神戸研究学園都市大学交流推進協議会（ユニティ）が1999（平成11）年3月に開設されてから20年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

兵庫県立大学とユニティとの関係は、神戸商科大学（当時）が1990（平成2）年に神戸市垂水区から神戸市西区の現在の地に移転してきた時から始まります。その後、2004（平成16）年に神戸商科大学・姫路工業大学・県立看護大学の県立3大学が統合し、兵庫県立大学として開学。総合大学の持つメリットを最大限に活かし、独創的で先駆的な視点での「新しい知の創造」を進めています。

さて、世界は、グローバル化とサイバー化が急速に進展、ヒト・モノ・カネが地球規模で移動する時代となり、様々な情報が瞬時に世界中に拡散します。加えて、情報通信技術の発展がソサエティ5.0等の言葉に象徴されるように、産業構造から経済活動、社会構造まで根底から変えようとしています。

このような時代を切り拓き、活躍できる人材を育成するために、2019（平成31）年4月、神戸商科キャンパスは、経済学部・経営学部を国際商経学部と社会情報科学部に改編しました。国際商経学部では、経済学や経営学の各分野を深く学ぶと共に、それらの融合領域（金融ファイナンスや社会イノベーション）も学べる「経済学・経営学コース」と、1年間の寮生活や海外研修、インターンシップを経験し、世界をキャンパスに国際力を身に付けることを目指し、講義をすべて英語で行う「グローバルビジネスコース」を設置しています。また、社会情報科学部では、ビッグデータの処理や可視化、分析に関する技術や理論を学ぶデータサイエンティストの養成を目指すと共に、実際に企業と連携して現場の生きたデータを用いて、社会実装力を磨いていきます。

神戸商科キャンパスでは、こうした新しい取り組みにチャレンジする一方、ユニティを通じて他大学等と連携しながら、同じ学園都市で学ぶ学生間の交流・教員の共同研究などに積極的に取り組むだけでなく、地域住民の皆様とともに一層の連携・交流を深めていく所存です。



20  
周年を  
迎えて

## 『更なる発展を期待して』

流通科学大学 学長

# 中内 潤



ユニティ開設 20 周年を心よりお祝い申し上げます。

本学は、1988 年（昭和 63 年）に設立いたしました。開学から 30 年が過ぎ、この間、神戸研究学園都市周辺も人口が増え、子どもからお年寄りまで多くの方々と賑わう活気ある地域となりました。ユニティは、1999 年（平成 11 年）に神戸の知的文化の核としての発展が期待され開設されました。単位互換講座、研究交流等の大学間の交流だけでなく、地域との交流も大切な役割だと感じております。

それぞれの大学の個性を活かした「ユニティ公開講座」は、地域住民の生涯学びを楽しむことを共有し、学びのコミュニティを作りあげてきたことと思います。今後も、地域に根差し、教室の中だけでなく、地域の人々とのふれあいや地域の人々との協働を通して地域の課題を解決する中で、地域に埋め込まれた知を発見し、大学の知と地域社会の知の循環を作り出すことにより新たな価値を地域に創出して頂きたいと考えます。本学でも毎年秋に、本学教員だけでなく企業・団体や学生も協力し、学びたい人へ学びたいことを学びたい時に学んでいただくための公開講座「ネアカ塾」を開催しております。身近な小売、金融や観光等のテーマから趣味・娯楽まで多彩な講座を提供していますが、受講者の皆さんは好奇心旺盛で、とても熱心です。

また、ユニティを拠点とし、学生たちが、他大学の学生と協力し、学園夏まつりのイベントの企画・運営や地域の小学生対象の教室開催、地域住民の方と協力して町の美化活動に積極的に取り組む等素晴らしい活動をしてきています。今後も、大学生らしい地域の子どもたちからお年寄りまで喜んで頂ける多彩な活動を期待します。

本学には、約 20 か国・地域の留学生が在籍しております。留学生はこの地域に愛着を持っています。また、ユニティ加盟大学にも多くの留学生が在籍していると聞きます。さまざまな国の留学生と日本人学生や住民が親しく交流することにより、異文化に対する興味や理解を深め、今後は、神戸・学園都市だけにとらわれず海外の地域・大学と積極的に交流し、ユニティの活動がさらに発展することを願います。

## 『UNITY20周年記念誌祝辞』

神戸市立工業高等専門学校 校長

山崎 聡一



ユニティ開設 20 周年を心からお祝い申し上げますとともに、これまで運営にご尽力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。

本校はユニティ開設の礎となる「神戸研究学園都市 5 大学協議会」の発足（1985 年）から 5 大学の一員として同協議会に参画してまいりました。その後 1990 年に開学の地、舞子から学園都市に移転開校し、ユニティ設立の前年となる 1998 年に専攻科を設立、昨年 20 周年を迎えることとなりました。この間、大学改革支援・学位授与機構から学位授与に関する評価を受け、高等教育機関としての質保証を図るとともに、ユニティでの活動を通じて他大学との教育・研究面での連携や、地域社会に対する貢献に努めてまいりました。

このように振り返ってみますと、ユニティの活動が本校の運営と機を一にして展開され、少なからぬ影響を与えているものと考えられます。例えば共同研究は本校教員にとりまして、魅力的なテーマを発掘するよい機会となっています。今後は他大学との連携を学生の研究活動に広げることができれば、工学系の研究に文理融合の視点を取り入れ、新しい視点での研究が展開できる可能性があると思います。

地域貢献は大学が果たすべき使命のひとつです。5 大学 1 高専で構成されるユニティが学園都市の中心に地域の皆さんと共にあることは、大きな意義があります。皆さんが学園都市に居を構えられましたのも、大学のある街という文化の薫り高い雰囲気求められた結果だと思えます。ユニティの取り組みとして公開講座や施設の貸し出し等がありますが、これらをさらに充実させるとともに、今後は学園都市を含めたより広い範囲の地域の皆様にどのような貢献が可能か検討していく必要があります。

ユニティを通して知の連携を広く発信していくこと、地域の皆さんがユニティとともにあることを誇りに感じていただくこと、ここで学ぶ学生がユニティでの成果を日本各地へ、更には世界に届けてくれることを願って、今後とも活動に取り組んでいきたいと思っています。



20  
周年を  
迎えて

## 『UNITY20周年を迎えて』

公立大学法人神戸市看護大学 学長

# 南 裕子



UNITY の開設 20 周年を心よりお祝い申し上げます。

阪神淡路大震災発災の翌年に創設された神戸市看護大学は、UNITY 創設の時から加盟大学ですが、2019 年 4 月に法人化し、公立大学法人神戸市看護大学として再出発しております。

ところで神戸の学術文化の拠点として、神戸研究学園都市周辺にある 5 大学 1 高専が加盟して誕生した大学共同利用施設 UNITY の 20 周年の歩みは本学の 23 年の歴史と重なるものがあります。思い返しますと阪神淡路大震災の爪痕が濃く残る神戸市において市民にとっても加盟大学の学生や教職員にとりましても UNITY の誕生は、明るい未来に繋がるようなことだったと思います。

神戸市看護大学は、看護学の単科大学なのでどうしても資源に限りがあります。UNITY 加盟大学が共有してくださる知的財産と多様な背景をもつ方々との交流は本学の学生の学びを豊かにし、教員の研究の視野を広め、共同研究を推進するきっかけになっています。

逆に本学が提供してきた看護学とその関連分野の専門知識や技術は、神戸市民が健康生活を営む上でいろいろな側面で役立っているのではないかと思います。現在の少子高齢社会における出産や子育て、そして高齢者の納得のいく生き方と介護の課題は、市民にとって「わがこと」ですので、毎年本学は時代のニーズにそったテーマを掲げて講座を提供してまいりました。

この 20 年間、本学は COC や COC+ を通して様々な地域貢献・連携の活動をしてまいりました。また、神戸市地域子育て支援拠点事業の一環としてのコラボカフェや兵庫県看護協会と連携した「まちの保健室」、また看護界へのリカレント教育関連の活動など活発に行ってきました。しかし、法人化を機にさらなる地域連携を促進すべく準備しているところです。

これからは Society5.0 時代に情報技術の活用によって UNITY 加盟大学の皆様とともにさらに協働できるのではと期待しています。

The background features several overlapping, curved, wavy shapes in a light yellow color against a white background. These shapes create a sense of movement and depth, resembling stylized waves or abstract architectural elements.

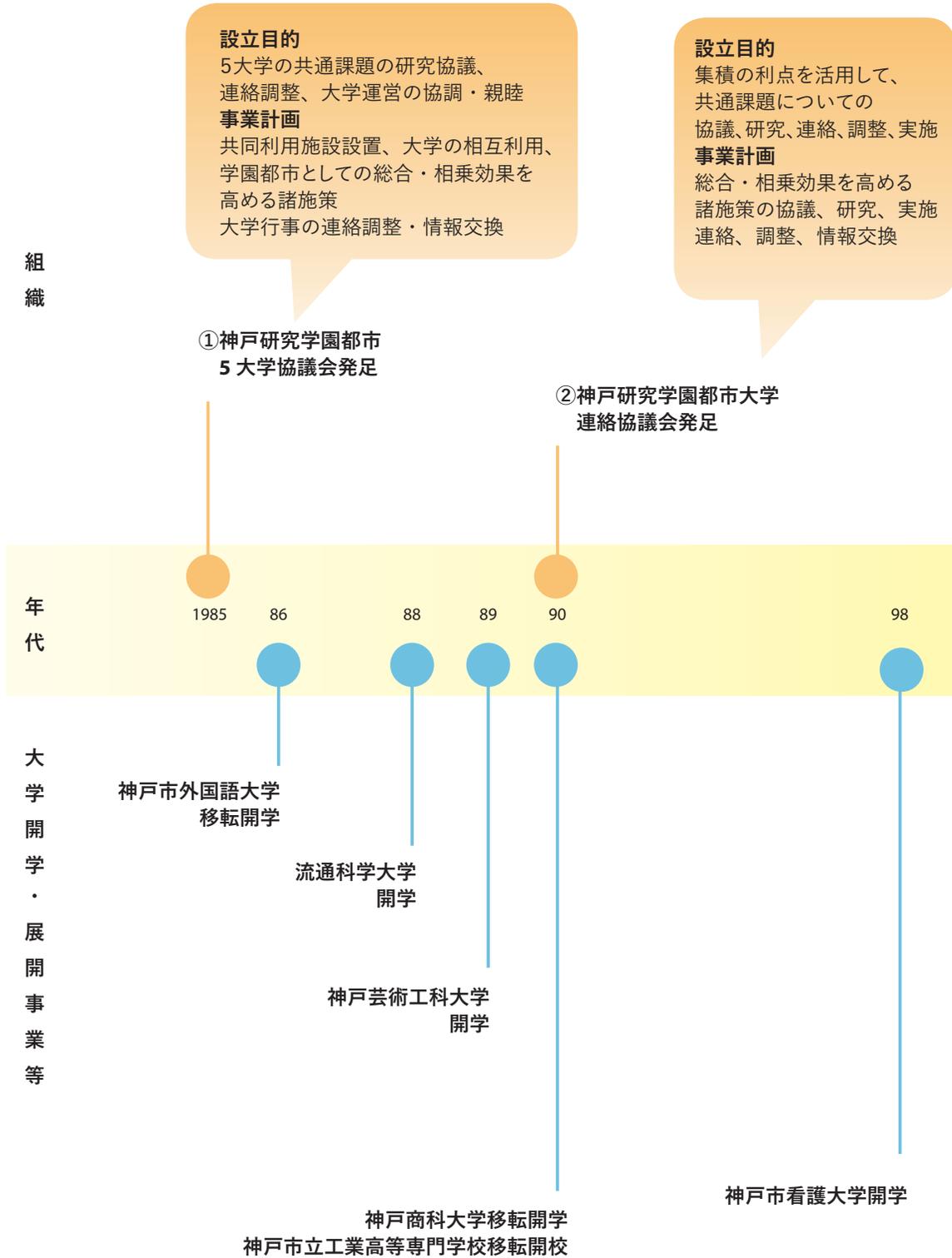
**UNITYの歩み**

# (1) UNITY (ユニティ) 誕生の流れ

—1985年～2019年の組織・事業



UNITYの歩み



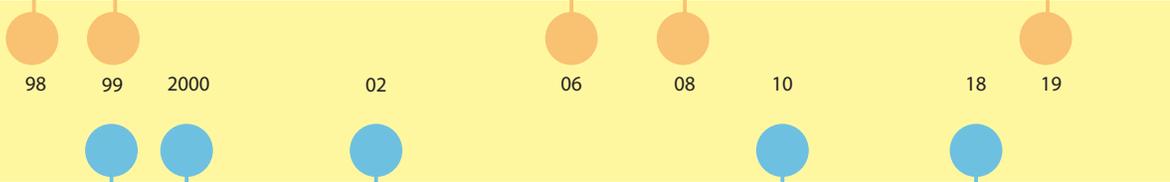
**設立目的**  
 大学交流センターの  
 円滑な運営  
**事業計画**  
 加盟大学の教育の充実、  
 学生・教員・大学の交流  
 高大連携講座 (15 年度)、  
 大学と地域の連携・交流

③神戸研究学園都市大学  
 交流センター推進協議会  
 発足

④ユニバープラザ完成  
 ユニティ開設

②、③を解消し、  
 神戸研究学園都市  
 大学交流推進協議会を設立

ユニティ 10 周年



- 単位互換講座
- 資格取得講座
- 公開講座
- 語学講座
- セミナー室等の市民利用
- 学園都市大学交流戦
- 共同研究
- ユニティホームページ
- 高大連携講座
- SD 研修
- 特別公開講座

## (2) UNITY (ユニティ) 大学連携事業の歩み



### 1. UNITYの誕生

神戸研究学園都市は、近畿圏、神戸都市圏における研究・教育機能の核として、研究教育施設と良好な住宅地を一体的に整備し、「人間都市神戸」の高等教育や学術研究の核として、将来の社会的、文化的発展に貢献する都市として計画された。

そのため、大学をはじめとする研究・教育施設と調和した良好な環境の住宅地が計画され、新しい「学園コミュニケーション」として一体的に整備されることとなった。

学園都市における研究教育機能の整備・充実の基本テーマは、

#### (1) 地域主義の指向

従来の東京圏、京都、大阪への集中構造を是正し、当地域発展の核としての役割を果たすため、神戸における研究教育上の課題に対応し、欠けている分野を補いつつ、地域の社会・文化・経済基盤の強化に役立つ人材の育成と指導的根拠となることをめざす。

#### (2) 生涯教育への接近

生涯教育の視点から新しい研究教育の実験場とするため、専門家、市民の意見を十分取り入れつつ、それを可能にする人材集団を積極的に誘致するとともに、目的に沿った活動がしやすい環境作りを行う。

#### (3) 国際性の追求

国際港湾都市神戸にふさわしい国際感覚と国際的視野を身につけた人材の養成を担うとともに、教育・学術・文化の国際交流の機会拡大に務める。

また、神戸研究学園都市が既成市街地から適度の距離に位置するという立地上の利点を生かしてユニークな学園都市を形成する。

の3点で神戸都市圏の特色を生かしたものとするよう期待されていた。

### 2. 教育研究機能の誘致導入

(1) 学園都市への大学の誘致導入にあたっては、神戸圏域で比較的弱い分野を補強しつつ、かつ多様な分野をカバーすることを基本方針とされ、その分野については、①社会学・国際科学系 ②理学・工学系 ③芸術・教育系の3学科群の構成とし規模的には総合大学に相当する3,000名/学年(全体で12,000名)の学生を想定することとされた。

導入する大学については、総合大学1校をもって対応するのではなく、各々特色を持った単科大

学を数校配置し複合型の大学構成として、総合補完と協力による総合化を図ることとされた。

その他、学部の分野構成を基盤とし、地域の特色を活かす職業人の再教育などリカレント教育の要請に応えるための大学院、大学と有機的な繋がりをもって学術研究の向上に寄与する研究所、多様な教育機会の確保と実学を重視する立場から、短期大学あるいは専修学校、その他の教育訓練機関の積極的な配置を図るものとされていた。

1979(昭54)年頃から積極的な誘致活動が始まり、1986(昭61)年神戸市外国語大学、1988(昭63)年流通科学大学、1989(平成元)年神戸芸術工科大学、1990(平2)年神戸商科大学(現兵庫県立大学神戸商科キャンパス)、神戸市立工業高等専門学校、1996(平8)年神戸市看護大学が移転開学又は開学し現在に至っている。

### 3. 大学連携の始まり

神戸研究学園都市は、神戸の都心・三宮から神戸市営地下鉄で約20分の学園都市駅を中心に1.0km、3分から10分の近距離内にあり、それぞれ異なった分野の大学が近接しているのが特徴で、この特徴を活かした大学連携が進められてきた。

大学連携は、1985(昭60)年発足の神戸研究学園都市5大学協議会の活動から始まった。

#### (1) 神戸研究学園都市5大学協議会の発足

神戸市外国語大学、流通科学大学、神戸芸術工科大学、神戸商科大学、神戸市立工業高等専門学校の5大学の事務責任者で構成された事務局レベルの協議会として各大学とも移転開学以前の1985(昭60)年11月21日に発足している。会議は、5大学の持ち回りで月1回程度開催されており、1990(平2)年4月16日の第36回を最後に新たに設置される「神戸研究学園都市大学連絡協議会」の「事務局長部会」へ発展的に承継された。

設置の目的は「5大学が共通課題について研究協議および連絡調整を図ることにより、大学の設置運営についての協調と相互親睦に資すること」であった。

事業としては、①共同利用施設の設置 ②大学の相互利用 ③学園都市の総合・相乗効果を高める諸施策等についての研究協議、大学行事の連絡調整及び情報交換等があげられていた。

## (2) 神戸研究学園都市大学連絡協議会

1990（平2）年4月に神戸商科大学及び神戸市立工業高等専門学校が神戸研究学園都市に移転開学し、5大学が出揃ったところで5大学連絡協議会を発展的に解消して学長で組織する「神戸研究学園都市大学連絡協議会」が1990（平2）年4月26日に発足した。その後、神戸市看護大学、兵庫県立看護大学、神戸学院大学、神戸市国際大学が参加するが、神戸学院大学（1998（平10）年）及び神戸国際大学（2001（平13）年）が大学の移転等により退会することとなり、更に神戸商科大学と兵庫県立看護大学が合併して、2004（平16）年4月に兵庫県立大学となったため、5大学・1高専で構成することとなった。

設置の目的は、「5大学が、その共通する課題等について協議、研究、連絡、調整及びその実施を図ることにより、集積の利点を最大限に活用し、5大学の発展、向上に寄与する」ことである。

事業としては、①5大学の総合・相乗効果を高める諸施策について協議、研究及び実施②連絡・調整③情報交換などとされている。

第1回連絡協議会での意見交換をふまえて、今後取り組むべき問題、施策等についてとりまとめ、「神戸研究学園都市大学連絡協議会事業計画」（1990（平2）年11月策定）が短期、中期、長期の計画に分けて策定されている。この事業計画は、その後の大学連携の基本理念として引き継がれ、着実に実現されている。

## (3) 神戸研究学園都市大学交流センター推進協議会

1996（平8）年1月神戸市による（仮称）文化交流プラザ建設の決定に伴い、大学交流センターの運営に必要な組織、財務、事業を企画・実施するため、1998（平10）年5月12日に学長で組織する神戸研究学園都市大学交流センター推進協議会が設置された。

設置目的は、神戸研究学園都市大学交流センターの円滑な運営である。

実施事業は、①市民対象の公開講座②学生対象の公開講座（単位互換授業）③研究者の交流（共同研究等）④学生間の交流及び大学と市民との交流⑤センターの運営⑥その他必要と認める事項である。

その結果、神戸研究学園都市における大学連携については神戸研究学園都市大学連絡協議会が全体的な企画・計画を行い、具体的な大学連携事業及び大学交流センターの運営については、神戸研究学園都市大学交流センター推進協議会が行うこととされ、実施事業については、連絡協議会の図書館部会、センター推進協議会の専門部会として設置された経営部会、講座部会、研究交流部会により実施されてきた。

## (4) 神戸研究学園都市大学交流推進協議会の発足

1998（平10）年5月の神戸研究学園都市大学交流センター推進協議会の設立に伴い神戸研究学園都市における大学連携については、神戸研究学園都市大学連絡協議会との機能分担により実施されてきた。

しかし、神戸研究学園都市大学交流センターの事業の充実に伴い両団体の業務に重複が生じてきたため、2006（平18）年4月1日これらの2団体を発展的に解消統合して神戸研究学園都市大学交流推進協議会が設立され現在に至っている。

設置目的は、加盟大学に共通する課題等について協議、研究、連絡、調整を図り、集積の利点を最大限に活用し加盟大学の連携による総合、相乗効果を高める諸事業の実施及び地域との協働・連携を図り加盟大学の発展、向上に寄与することとされている。

実施事業については、①加盟大学の総合、相乗効果を高める諸施策の協議、研究及び実施②情報交換及び連絡調整③大学交流センターの設置及び運営④単位互換講座及び就職支援等学生対象の諸事業⑤教員の研究及び交流⑥大学及び学生の交流⑦大学と市民との交流及び地域との連携・貢献⑧学生又は市民対象の公開講座⑨高大連携⑩その他目的達成に必要な事業となっている。



(1999(平11)年2.20  
神戸新聞)

## 4. UNITY(ユニティ)の誕生

### (1) 共同利用施設設置の経緯

大学の共同利用施設（神戸研究学園都市大学交流センター）の設置については、神戸研究学園都市の計画立案当初からその必要性について検討され、1979（昭54）年の土地利用計画において「地区センターは、商業・業務等の生活利便施設を集約するほか、学園関連の共同利用施設も集約化し、住民と大学関係者とコミュニティの場とする」とその整備の基本的方向が示されている。

また、1990（平2）年11月に策定された神戸研究学園都市大学連絡協議会の事業計画の主要な内容は、①大学間における学生・教職員の交流②研究・教育のための大学間の相互協力③地域に開かれた大学としての活動などであるが、これらの事業を実現する上での「ハードウェア」



として共同利用施設の設備が盛り込まれていた。  
連絡協議会は、これ以降共同利用施設構想に積極的に取り組み、1991（平3）年9月に共同利用施設基本構想を取りまとめ、1992年（平4）年3月25日に、5大学学長名で神戸市長に対し「大学間の交流により単科大学から構成されている各大学の教育内容の充実と大学群としての魅力の創造を図るために交流施設の整備」を要望するとともに、また一方で「市民と大学との交流の場の創出」についても強く要望を行った。

その後、1994（平6）年1月に翌年度の早い時期に（仮称）文化交流プラザの建設に着手することが神戸市より発表され、これを受けて同年5月に各大学の代表者と事務局長で構成される「共同利用施設検討委員会」が設置され、共同利用施設の基本方針の検討及び報告書の作成が行われ、同年11月報告書「神戸研究学園都市共同利用施設整備計画について」が神戸市に提出された。

### (2) 共同利用施設の性格・内容及び管理運営

報告書では、共同利用施設の性格について単に5大学の共同利用施設あるいは学園都市の交流施設にとどまるものではなく、より広範囲にされるべきものとして位置づけられている。具体的には、以下の4点があげられている。

- ①全市の見地からみて、ひとつの文化的発信基地になるものとする。
- ②大学の共同利用施設としては、単に学園都市内の5大学の便のみでなく、近隣大学を含め、さらには全市的な大学の共同利用施設となるよう方向づける。
- ③大学当局あるいは教員側からの発想のみでなく、学生側から要望も重視し、学生街としての性格を演出できるような場とする。
- ④これにより、学園都市の文化的な位置づけを高め、結果として5大学の便益を高めることができる。

### (3) 共同利用施設の活用内容

共同利用施設のあるべき性格を十分に反映できるように、施設の活用及び具体的事業内容として以下のものが検討されている。

- ①生涯学習ニーズに対応した公開講座の開設  
参加大学生を対象とした単位互換の可能な公開講座（単位互換制度）や市民を対象とした公開講座（科目等履修生制度）の開設
- ②外国からの留学生・研究生を対象とした日本語講座の開設
- ③5大学及び近隣大学の研究者による共同研究・情報交換などの場（ミーティングとくつろぎの場）としての共同研究室の設置

- ④図書館情報ネットワークを活用し、文化・学術・情報の拠点の整備
- ⑤外国及び国内研究者の招へいや学会・研究会などの活動に不可欠な研究者用の宿泊施設
- ⑥学生のサークル活動の支援や5大学の教員の交流を図るための和室や会議室などの施設

また、これらの事業を展開していく上で必要となる施設の構成やスペースについても具体的提案がなされていた。

その後、1995（平7）年1月に発生した阪神・淡路大震災により建設計画は一時凍結された。しかし、大学等からの強い要望もあったため、大学共同利用施設の規模は縮小されたが、1996（平8）年2月、住宅復興緊急3カ年計画にもとづく特定優良賃貸住宅との複合施設として1997（平9）6月着工され、1999（平11）年3月25日完成オープンの運びとなった。

- \*施設の概要〔規模〕ユニバープラザ1・2階  
延床面積 1,700㎡  
〔設備〕大教室（定員 200 人 1 室）  
中教室（同 81 人 1 室）  
小教室（同 30 人 1 室、48 人 1 室）  
特別会議室（同 28 人 1 室）  
共同研究室（同 16 人 1 室）  
和室（10 畳・12 畳 4 室）  
その他（ロビー、ホワイエ、教員研究室）

## 5. UNITY(ユニティ)の活動

5大学・1高専は、神戸市営地下鉄学園都市駅を中心に約1km徒歩で3分～10分の近距離内にある。これらの大学は、比較的小規模ではあるが各々特色を持った複合型の大学構成である。

ユニティの大学連携は、各大学の特色及び独自性を最大限に発揮するため、近距離に5大学・1高専が集積しているメリットと異なる分野の相互補完と協力による総合化を図ることにより、各大学の教育の充実及び学生等の多様なニーズに対しより効果的な対応を可能とすることを目的としている。



そのため、大学群の中心にある大学共同利用施設 UNITY を拠点として、(1) 加盟大学の教育の充実、(2) 学生・教員・大学の交流、(3) 高大連携講座の取組み、(4) 大学と地域の連携・交流の4本柱を基本として事業を実施し、発展させてきている。

## (1) 加盟大学の教育の充実

単位互換講座、就職支援事業及び図書館の相互利用等を連携及び共同して実施し、学生の教育の充実及びサービスの充実を図ってきた。

### ① 単位互換講座の開講

学生が所属大学とは異なった専門分野への関心を持つとともに自分の専門分野に厚みと深みを加えることを目的として単位互換講座を開講している。

提供科目は、各大学が基礎的で特色のある科目から選定し、学生の教養の幅を上げそれぞれの専門分野をより深く掘り下げることが可能な科目を選定している。

単位互換講座については、「特別科目」と「学内提供科目」がある。「特別科目」は、多くの学生が受講可能なように加盟大学の授業終了後の夜間（原則として18:15～19:45）にユニティにおいて開講している。「学内提供科目」は、加盟大学において通常の時間に開講されている科目である。2018（平30）年度の提供科目は、特別科目21科目、学内提供科目27科目、合計48科目、792名が受講しており、この19年間では、延27,209名もの多くの学生が受講している。

2018年度後期実施分の受講した学生へのアンケートによると、単位互換講座を受講して良かった点として「自分の大学にはない授業を受けることができた」（34.4%）、「自分の専門以外の分野を良く知ることができた」（30.1%）、「自分の専門分野をさらに詳しく勉強できた」（24.0%）が多かった。また、単位互換講座を受講して「満足した」の回答は85.2%で、受講した学生からは高い評価を受けている。

担当した教員へのアンケートでは、①「学生の受講態度もよく気持ちよく授業できた」（54.5%）②「他大学の学生と一緒に受講することにより良い刺激を受けていた」（27.3%）などの回答が多かった。

### ② 就職支援事業の実施

大学は、受け入れた学生を社会に貢献する有為な人材として育成して社会に送り出すことが求められている。

そのため、各大学とも就職支援事業は必要不可欠な事業となっているが、ユニティでも加盟大学の学生のニーズと各大学の取組み

の状況に応じて、公務員受験対策講座等の就職対策講座やキャリアアップのための資格取得講座を開講するとともに、就職セミナーや企業説明会等の合同開催を行ってきた。

なお、2018（平30）年度においては、資格取得講座として通関士試験対策講座を開講している。



### ③ 図書館の相互利用の進展

各大学の蔵書を相互利用することにより、教員や学生にとってより充実した図書館利用を可能とするシステムを構築している。

1991（平3）年9月より加盟大学の図書館部会を設置し、「加盟大学図書館の相互協力」の推進をテーマに検討を始めて、1993（平5）年1月から「教職員共通閲覧証」による相互利用制度をスタートした。

その後、1998年（平15）6月には、院生にも直接貸出を始め、2005（平17）年からは「共通閲覧証」により学生の相互利用も可能とし、2007（平19）年度から「学生証」及び「身分証明証」による利用を可能としている。

ユニティのホームページ上に各大学の図書館の利用案内を掲載して、学生、教員等の利用の便に供している。

## (2) 学生・教員・大学の交流

### ① 教員の共同研究交流推進事業

加盟大学が大学間の連携を深め、各大学の特徴を活かしつつ研究の幅を広げるためには教員の交流が必要との考えにより、加盟大学教員の共同研究を推進するため「共同研究交流推進事業」を実施している。

この事業は、加盟2大学以上の教員が共同研究する場合、一般枠は1件30万円（年3件まで）、特別枠、若手枠は1件50万円（それぞれ年1件まで）の助成金を助成する制度で、2000年（平12）年度～2018（平30）年度で計71件に助成し、共同研究が行われている。

なお、この制度を利用した共同研究については、その結果を共同研究発表会の開催若しくは共同研究成果のユニティのホームページへ

の掲載により、市民に対して発表することを義務づけており、学術・文化の情報発信の事業となっている。

### ② 神戸研究学園都市大学交流戦への支援

神戸研究学園都市大学交流戦は、2000（平12）年度に流通科学大学体育会が「学園都市の大学に在学した思い出をつくろう!!」と提唱し、神戸芸術工科大学、神戸市外国語大学、神戸商科大学（現兵庫県立大学商科キャンパス）、流通科学大学の4大学でスタートした。その後、神戸研究学園都市大学連絡協議会加盟大学全体のスポーツ交流戦とするため未参加大学へも働きかけ、2002（平14）年度の第3回大会からは神戸市看護大学、神戸市立工業高等学校、兵庫県立看護大学（現兵庫県立大学明石看護キャンパス）が加わり加盟大学全校参加の大会となった。さらに2003（平15）年度第4回大会より誰でも参加が出来るレクリエーション競技を加え「地域住民とスポーツを通じて交流」を実現し現在に至っている。

ユニティでは、交流戦の開催を支援するために助成金の交付を行っている。



### ③ 加盟大学合同SD研修の実施

大学設置基準では、「大学は、当該大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。」と規定しており、各加盟大学では、当該規定の趣旨を受けて職員を対象としたSD（Staff Development）研修の実施に取り組んでいるが、ユニティでは、同研修を効果的・効率的に実施する観点から加盟大学合同SD研修を2010（平22）年度から実施している。

その主なテーマは、問題解決力向上、折衝・交渉力向上、コミュニケーション能力向上、プ

レゼンテーション能力向上等であり、主として新規採用職員や新規転入職員を対象として実施している。

### (3) 高大連携講座の取組み

高等学校生徒に学習機会の拡大、進路に関する情報提供及び地域開かれた大学の実現を目指して高大連携講座に取り組んでいる。

協定締結校の高校生は、単位互換講座特別科目のうち高校生の受講が適切と判断された科目を大学生と同一条件で受講できる。

高大連携講座は、2003（平15）年度に神戸市内の公立高校14校と協定を締結してスタートしたが、2016（平28）年度からは市内の高校23校（県立高校11校、市立高校5校、私立高校7校）と協定を締結している。2018（平30）年度は、提供科目13科目、受講者数17名で、取り組み始めてからの16年間で574名の高校生が受講している。

2018年度後期実施分の受講した高校生へのアンケートによると、受講理由では「関心を持っている分野の授業だから」（71.41%）、「進路選択に役立つから」（14.3%）、「教養や知識を身につけることができるから」（14.3%）が多かった。

「受講しての感想」については、「高校にはない分野の授業や専門的な授業を受けられた」（85.8%）、「難しかったが興味を持って受講できた」（57.1%）、「知らない人ばかりで緊張した」（57.1%）が多かった。

また、教員のアンケートでは、「受講した高校生は非常に真面目で熱心」、「大学生にも良い刺激となっている」、「高校生にもわかるような説明を心掛けるので、授業全体にとっても良いことだと思った」との意見があった。

### (4) 大学と地域の連携・交流

#### ① 公開講座の開講

市民の生涯教育を推進し、加盟大学の最新の研究成果を市民に還元するため、公開講座を1999（平11）年度から開講している。

公開講座は、各加盟大学が毎年1テーマ、5回シリーズの講座を企画して一般市民を対象に実施するとともに、ユニティ共同企画の講座や小学生を参加対象とした夏休み講座なども開講している。



(UCC コーヒー博物館見学)

② 特別公開講座の開講

加盟大学の教員が自らの研究テーマを中心に3～5回シリーズの講座を企画し、一般市民を対象に講義する特別公開講座を2018（平30）年度から開講している。

特別公開講座の担当教員は、各加盟大学がその所属する教員に対して、毎年公募により募集を行っている。

③ 市民対象講座の開講

地域住民の生涯学習ニーズへ対応するため、神戸市外国語大学の教員を中心とした講師陣による語学講座（英語、中国語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語）やパソコン教室等の文化講座を開講している。

④ 学生団体の地域行事参加への支援

神戸研究学園都市で開催される地域行事への加盟大学学生の参加を促進するため、2009（平21）年より、毎年8月にユニバードームで開催される学園夏まつりに出演・出展する学生団体に対して助成金の交付を行っている。

また、2016（平28）年より、毎年8月にユニバー競技場で開催されるUNIVER祭に出演・出展する学生団体に対して助成金の交付を行っている。

⑤ 地域コミュニティの場の提供

ユニティのセミナー室については、授業や学生・教員の利用がない時間帯は、市民の施設利用を可能としており、地域住民のコミュニティ及び地域活動育成に貢献している。

6. UNITY（ユニティ）の組織

ユニティを継続的かつ安定して運営するため、5大学・1高専が「神戸研究学園都市大学交流推進協議会」を組織し、各大学・高専が分担金を拠出してユニティの運営を行っている。

事業の計画及び実施については、各大学・高専の学長・校長で構成する理事会を最高決定機関とし、各事業の具体化については、教員及び事務職員で構成する事務局長部会、講座部会、研究交流部会、図書館部会、学生生活部会を設置し運営を行っている。

また、事務局を設置し、常勤職員を配置して大学共同利用施設の管理及び各事業の事務体制を確立している。

\*神戸研究学園都市大学交流推進協議会の組織

- ①理事会（学長・校長）：協議会を代表し会務を統括
- ②事務局長部会（事務局長）：総務及び経営問題、地域との交流その他の部会に属さない事項について企画、立案、調整

③講座部会（教務担当教員・職員）：単位互換講座・高大連携講座・公開講座等の企画、立案、調整

④研究交流部会（研究所長・職員）：大学間の研究交流を推進するための共同研究その他の企画、立案、調整

⑤図書館部会（図書館長・職員）：図書館の共同する課題についての連絡、協議、研修及び研究

⑥学生生活部会（教員、職員）：大学間の学生生活における共通する課題等についての連絡、協議、研修、研究

参考文献

- \*神戸研究学園都市建設誌 1994年3月
- \*私学経営 No198 高等教育機関の連携について 1991年8月
- 神戸研究学園都市大学連絡協議会 三宅一忠（元神戸市外国語大学事務局長）
- \*共同利用施設検討委員会報告書 1994年11月
- 神戸研究学園都市大学連絡協議会 共同利用施設検討委員会
- \*神戸市外国語大学 50年史 1996年6月
- 神戸市外国語大学



(学園夏まつり)

加盟大学のあらまし

## 加盟大学の概要



加盟大学のあらし

大学名	学生数(名)			学部・学科名
	学部	大学院	合計	
神戸芸術工科大学 〒651-2196 神戸市西区学園西町 8-1-1 TEL(078)794-2112 FAX(078)794-5027	1,641	89	1,730	芸術工学部 環境デザイン学科、 プロダクト・インテリアデザイン学科、 ビジュアルデザイン学科、映像表現学科、 まんが表現学科、ファッションデザイン学科、 アート・クラフト学科 大学院 芸術工学研究科 芸術工学専攻(博士後期課程)、 総合アート&デザイン専攻(修士課程)
神戸市外国語大学 〒651-2187 神戸市西区学園東町 9-1 TEL(078)794-8121 FAX(078)792-9020	2,139	148	2,287	外国語学部 英米学科、ロシア学科、中国学科、 イスパニア学科、国際関係学科 外国語学部第2部 第2部英米学科 大学院 外国語学研究科 文化交流専攻(博士課程)、 英語学専攻、ロシア語学専攻、 中国語学専攻、イスパニア語学専攻、 国際関係学専攻、 日本アジア言語文化専攻、 英語教育学専攻(修士課程)
兵庫県立大学 (神戸商科キャンパス) 〒651-2197 神戸市西区学園西町 8-2-1 TEL(078)794-5184 FAX(078)794-6166	1,841	224	2,065	国際商経学部 国際商経学科 社会情報科学部 社会情報科学科 } 経済学部・経営学部を再編し、2学部を開設  [ 経済学部 国際経済学科、応用経済学科 経営学部 組織経営学科、事業創造学科 ] 大学院 経済学研究科 経済学専攻 (博士前期課程、博士後期課程)、 地域公共政策専攻(博士前期課程) 経営学研究科 経営学専攻(博士後期課程) 大学院(専門職) 会計研究科 会計専門職専攻 経営研究科 経営専門職専攻

大学名	学生数(名)			学部・学科名
	学部	大学院	合計	
流通科学大学 〒651-2188 神戸市西区学園西町 3-1 TEL(078)794-3555 FAX(078)794-3510	3,747	40	3,787	商学部 マーケティング学科、経営学科 経済学部 経済学科、経済情報学科 人間科学部 人間社会学科、観光学科、人間健康学科 大学院 流通科学研究科(修士課程、博士後期課程)
神戸市立 工業高等専門学校 〒651-2194 神戸市西区学園東町 8-3 TEL(078)794-3311 FAX(078)794-3314	542	0	542	専攻科 機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、 応用科学専攻、都市工学専攻 ※本科 機械工学科、電気工学科、電子工学科、 応用工学科、都市工学科
神戸市看護大学 〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-4 TEL(078)794-8080 FAX(078)794-8086	397	71	468	看護学部 看護学科 大学院 看護学研究科 看護学専攻 (博士前期課程、博士後期課程)
合 計	10,307	572	10,879	



# + + 神戸芸術工科大学

+ + KOBE DESIGN UNIVERSITY

30周年を期にさらにパワーアップする神戸芸術工科大学。  
「芸術工学」の理念が浸透した今、KOBE DUは、デザイン都市 KOBE を基盤として  
人間力と専門力を磨き、広く社会に貢献し、  
世界と共に新しい考え方とデザインの魅力を発信します。



加盟大学のあらまし

## ■神戸芸術工科大学の使命・目的

1989年、神戸芸術工科大学 (KOBE DU) は、国際都市神戸の地に開学し、「芸術文化」と「科学技術」の融合をテーマにデザインとアートを教育研究する世界水準の大学づくりを推進してきました。

本学は、人間生活に最も適合する技術を発展させるため、人間の立場から技術を駆使する芸術工学を研究し、高い次元の設計家、即ち多くの技術を人間の立場から総合的に計画し、人文、社会、自然の諸科学にまたがる知識と芸術的感性、豊かな教養を基盤とする総合的デザイン家（デザイナー）の育成を目的としています。

## ■芸術工学とは

芸術工学は、アートやデザインの学術活動を通して、人間の営みと歴史文化を基盤に「芸術文化」と「科学技術」を融合する学問です。芸術工学は、1968年に日本に誕生し、当時の高度経済成長期にあって、各種の公害や人間疎外の現象を解決するために「技術の人間化」を目指してきました。それから50年の時を経た今日、情報技術の急激な進展と情報ネットワークのグローバル化、都市や田園環境の変化、地球温暖化などによる災害や自然環境の変化、経済格差の拡大と経済の低迷、高齢人口の急増など、新



たな課題が顕在化し、これらの事柄の解決を担う「芸術工学」の学術活動は普遍的課題になりました。

新しい普遍的課題としての「芸術工学」は、アート、デザイン、メディアの教育と研究をテーマに、主体となる「人間」と人々がつくる「社会」とそれらを包む「環境」を豊かにするため、「生活」の場と、その「空間」と、それらを満たす「情報」の場を表現の対象とし、時代を表現するサステナブルデザイン、ユニバーサルデザイン、デザインマネジメントなどを実践する、未来社会を作る具体的活動がはじまりました。

本学では、このような体系の中に大学院と、7つの学科、25の専門コースを編成しています。時代が生む最先端の科学技術や造形的表現力に加えて、人間と社会への深い洞察力、想像力、そして社会的倫理観に裏付けられた決断力を学びます。具体的には、何かに気づき、発想し、調査・構想、企画・設計、そして表現し、造形する、ついで使用し修復するなどのプロセスを通して実践される教育研究なのです。神戸芸術工科大学は、「芸術工学」をテーマに国内外の芸術工学系の大学や地域社会と密接に連携し、市域社会や国際社会に貢献できる大学を目指しています。





## ■学部・学科の紹介

### ◇環境デザイン学科（定員：70名）

- ・リノベーションコース
- ・建築コース
- ・ランドスケープコース
- ・まちづくりコース

### ◇プロダクト・インテリアデザイン学科（定員：70名）

- ・ユニバーサルデザインコース
- ・インテリア・家具・木工コース
- ・プロダクト・カーデザインコース

### ◇ビジュアルデザイン学科（定員：80名）

- ・グラフィックデザインコース
- ・エディトリアルデザインコース
- ・Web・モーショングラフィックスコース
- ・イラストレーション・絵本創作コース

### ◇映像表現学科（定員：45名）

- ・デジタルクリエイションコース
- ・映画コース
- ・アニメーションコース

### ◇まんが表現学科（定員：45名）

- ・ストーリーまんがコース
- ・Webアニメ・コミックコース
- ・コミックイラストレーションコース

### ◇ファッションデザイン学科（定員：50名）

- ・ファッションデザインコース
- ・テキスタイルデザインコース
- ・ファッション企画コース

### ◇アート・クラフト学科（定員：40名）

- ・絵画コース
- ・フィギュア・彫刻コース
- ・美術教育コース
- ・ガラス・陶芸コース
- ・ジュエリー・メタルワークコース

## ■大学院

### ◇大学院芸術工学研究科

- ・博士後期課程芸術工学専攻（定員：6名）
- ・修士課程総合アート&デザイン専攻（定員：27名）

## ■研究機関

### ◇芸術工学研究機構

芸術工学分野における研究活動の活性化を図るため、学内外の共同研究や教育の支援、社会連携、国際連携、附置研究所の運営推進、デザイン知財の管理などを行っています。

- ・間（あわい）のデザイン研究所
- ・アジアデザイン研究所



### ◇芸術工学教育センター

「人を自由にする学問」リベラルアーツは、幅広い知識を学び、異なる考え方、多様なアプローチを理解できるようになる総合力を養成する手法です。専門的な知識とともに、社会のさまざまな問題に多様な角度から立ち向かう柔軟な思考力を修得します。さらにグローバルに展開するデザインやアートに対応するための語学力を向上させるプログラムも充実しています。

### ◇情報図書館

デザイン・アートの基本書から専門技術書まで、新刊書はもちろん希少な古典や映像資料も含め収集・提供し、開学以来、学生の創作活動を支えています。1階は各学科分野の関連資料、2階には人文・自然・社会分野の資料を配置し、約200名分の閲覧座席と48名収容のミニシアター「AV室」、ゼミ利用も可能な「グループスタディールーム」を完備しています。一般利用登録制度により、企業デザイナーや建築家など、現役のプロも利用している施設です。



# 公立大学法人 神戸市外国語大学

## 設置学科

英米学科  
ロシア学科  
中国学科  
イスパニア学科  
国際関係学科  
第2部英米学科

## 国際都市・神戸で歩んだ 神戸市外国語大学73年の歴史

1945年8月。第2次世界大戦の度重なる空襲によって多くの尊い命が失われ、神戸の市街地は約3分の2が焼け野原となりました。終戦当時、まちと生活の再建が最優先という中で、神戸では「国際文化教育の府」として外事専門学校を創設しようという機運が高まっていました。神戸市のためのみならず、復興へと歩み出した日本の将来を見据えての動きでした。



外事専門学校時代の大開の校舎

当時の神戸市助役・滝谷善一氏は、学者・教育者としての経験に基づく見識と、国際港都・神戸の歴史と特殊性から「外国語教育の振興を急ぐべき」と考え、市立外事専門学校創設の必要性を、中井一夫市長（当時）に強く訴えました。中井市長もこれに共鳴し、実現に向け動き始めました。

1946年2月、神戸市立外事専門学校設立議案が臨時市会にかけられました。滝谷助役は「各国との関係において、政治、外交、経済、産業、教育などあらゆる方面にわたって円満完全なる発達を遂げることは、わが国の再建に欠くことができない要件。青年学徒に各国の国語を習熟させ、極力海外事情に精通させなければならない。神戸市が東洋第一の良港を有し、その地理的、自然的好条件によって国際都市として再建を遂げるには、外事専門学校の設立が急務」という趣旨の提案説明をしています。

この後、文部省の認可を経て英語・ロシア語・中国語科の入学試験が実施され、1946年6月1日、神戸市立外事専門学校の開校記念日を迎えました。

当初の学舎は兵庫区大開通にありま



灘区楠ヶ丘のキャンパス全景

したが、周囲はまだ更地にバラック小屋が並ぶだけでした。

創立ののち、1949年に新制大学が生まれたとき、全国で初めての「外国語大学」としてスタートしました。（2019年で「神戸市外国語大学」として70年の節目となります。）

以降、学舎を灘区楠ヶ丘に移し、新たな歴史を刻み始めました。

1953年に第2部英米学科、1962年にイスパニア学科を設置。1986年には神戸研究学園都市の現在地に全面移転し、1987年に国際関係学科を設置。2007年には公立大学法人に移行し、現在に至ります。



現キャンパス  
正門から真正面に見える研究棟

## ■理念と目標

神戸市外国語大学は、現代社会の要請に応じた高度な外国語運用能力を備え、国際的な視野や学術的基盤、柔軟な判断力を持った、ビジネス、外交、教育、研究など社会の様々な分野で活躍できる「行動する国際人」を養成することを目指します。この教育理念にもとづき、刻々と変化し多様化する国際社会に機敏に対応できるように、2か国語以上の外国語を修得し、それぞれの言語の特性とその背後に広がる文化と社会に通じた「洗練された外国語能力」を備えた人材を育成することを目標とします。



加盟大学のあらし

## ■ディプロマ・ポリシー

次のような資質を持つ「行動する国際人」に学位を授与する。

- ① 世界を見渡す視点を持ち、専攻する地域を中心に言語、文化、社会に関する知識を備え、国際的な対話に対する積極的な姿勢を身につけていること。
- ② 特定の分野について外国語で意思疎通ができる能力を身につけていること。
- ③ 複数の外国語で社会の基本情報を手に入れ、世界の多様性を理解できる能力を身につけていること。
- ④ 世界の出来事に対して、その本質を理解し、その背景について議論し、自分の考えを体系的にまとめる思考力と表現力を身につけていること。



## ■求める学生像

神戸市外国語大学は、国際的な知識と柔軟な判断力を持った「行動する国際人」の育成を目指しています。本学での学びを通じて、外国や自国の言語・文化・社会への関心をさらに高め、これからの国際人にふさわしい視野の広さ・専門的知識・対話能力の獲得を積極的に目指す学生を求めます。



## ■求める学力

神戸市外国語大学は、このような学生が学習や研究を進めてその可能性を開花させるために、以下の学力と資質を持ち、また、その学力を入学後に発展させてゆく意欲にあふれる人を求めます。

- ① 外国や自国の言語、文化および社会に関する本学での学びの基礎となる、知識や技能
- ② 自ら課題を見出し、その解決に向けて多角的に探究し、その結果を的確に伝えることできる力
- ③ 多様な考えを持つ人々が共存する現代の社会において、自ら積極的に他者と対話し協働して学ぶ態度

## ■主な行事



### ◇語劇祭

語劇祭とは、約70年の歴史を持つ、本学ならではの伝統行事です。英米、ロシア、中国、イスパニア、第2部英米学科の5つの劇団が、それぞれの専攻する言語を用いて劇を上演します。演目選びから、衣装、照明、音響効果、舞台装置、そして語劇団ならではの日本語訳の字幕作成にいたるまで、全て学生が担当します。さらに、教員も台本の選定や発音の指導等に協力し、まさに大学をあげた行事となっています。



### ◇模擬国連

模擬国連とは国際連合の会議をシミュレーションする教育活動です。参加者は担当国の外交官役として、その国の利害を代弁して英語で交渉・議論を重ね、問題解決への合意形成を図ります。このプロセスを通じて、実際の国際問題や国連システムへの理解を深めます。なかでも模擬国連世界大会 (National Model United Nations) は、最大規模の大会で、春にニューヨークで5,000人規模の大会を、秋は世界各地の大学をホスト校とします。春の大会では国連総会議場を使用するなど、国連の全面的な協力を受けています。2016年11月には本学がホスト校となり、NMUN Japan KOBEを日本で初めて開催し、2020年にも再び本学での開催が決定しています。





# 兵庫県立大学

UNIVERSITY OF HYOGO

## 神戸商科キャンパス

—グローバル社会で自立できる高度な人材を育成—

それぞれに歴史と伝統を持つ神戸商科大学、姫路工業大学、兵庫県立看護大学の県立3大学が統合し、2004(平成16)年4月に兵庫県立大学が開学しました。統合による相乗効果と総合大学の持つメリットを最大限に活かし、異分野間の融合を重視した教育と研究を行い、独創的で先駆的な視点での「新しい知の創造」を進めています。

当県立大学は、2013(平成25)年4月に公立大学法人に移行し、その運営体制を改革、機動的かつ柔軟な法人運営の下、個性・特色ある取り組みを効果的・効率的に進めています。今では、6つの学部と14の大学院研究科、4つの附置研究所を有し、附属の中学校・高等学校を併設しています。

### 目指す大学像(基本理念)

- ・教育の成果を誇り得る人間性豊かな大学
- ・先導的・独創的な研究を行う個性豊かな大学
- ・世界に開かれ、地域とともに発展する夢豊かな大学

創立10周年・創基85周年を迎えた2014(平成26)年には、これまでの成果を踏まえ、決意を新たに県民や社会からの負託に応えていくため、来る2029(令和11)年の創基100周年に向けて取り組むべき目標として「兵庫県立大学創基100周年ビジョン」を策定しました。

このビジョンでは、上記の「基本理念」を踏まえ、社会から信頼され評価される、世界水準の大学を目指し、①学生や卒業生から誇りとされる大学、②地域や自治体から「知(地)の拠点」として信頼される大学、③企業や団体から有為な人材を輩出すると評価される大学、の3つを柱としています。

### 神戸商科キャンパス

国際商経学部(経済学部・経営学部)・社会情報科学部

経済学研究科・経営学研究科・会計研究科・経営研究科

政策科学研究所、神戸商科学術情報館

### 神戸商科大学から 兵庫県立大学神戸商科キャンパスへ

神戸商科大学のルーツは、1929(昭和4)年に開校された県立神戸高等商業学校(神戸市垂水区高丸丘)であり、その後1948(昭和23)年には、全国で初めての公立新制大学として神戸商科大学設置が認められ、1990(平成2)年に神戸市西区の神戸研究学園都市へ移転しました。

神戸商科キャンパスにおいては、2007(平成19)年に西日本の国公立大学では初めての会計研究科(会計専門職大学院)を設置、続いて2010(平成22)年には国公立大学では初の中小企業診断士養成課程を有する経営研究科(経営専門職大学院)を設置しました。

2019(平成31)年4月には学部再編により、国際商経学部と社会情報科学部の2学部を開設し、同年9月には、国際商経学部グローバルビジネスコースに属する日本人及び外国人留学生(1年次生)が入居する国際学生寮を建設。また、社会情報科学部の専門教育を行うための情報科学研究棟を建設しました。(2020(令和2)年2月完成)

(本部棟)



加盟大学のあらし

## 国際商経学部 国際商経学科

### ■経済学コース・経営学コース

経済学や経営学の各分野を深く学ぶと共に、それらの融合領域(金融ファイナンスや社会イノベーション)を専門的に学ぶ

すべての学生が4年間を通じてゼミに所属し、コミュニケーション能力、分析力、問題解決力の3つのスキルを培います。プロジェクトベース型授業では実社会の課題解決に取り組むことで実践的な学びを深めます。

### ■グローバルビジネスコース

経済学や経営学をすべて英語で学ぶと共に、寮生活や海外研修、インターンシップを経験し、世界をキャンパスに国際力を身に付ける

1年次は全員が国際学生寮に入居し、留学生との共同生活を通じて国際感覚を培うと共に異文化理解を図ります。また、このコースの専門科目は他コースの学生も受講可能であり、学部全体で国際力を強化します。



(国際学生寮)

## 社会情報科学部 社会情報科学科

データサイエンスで社会が抱える多様な課題の解決を目指す

社会や組織が抱える課題の解決方法として、日々の活動で生み出される膨大なデータ(ビッグデータ)から「価値ある情報」を引き出すデータサイエンスの必要性から新学部を設置しました。「生きた」データを用いた実践的な演習に加え、データの処理や分析に必要な情報処理技術や理論、課題の社会背景を的確に捉えるための社会科学の素養を身につけることで、高い課題解決能力を持つデータサイエンティストの育成を目指します。

## 経済学研究科(経済学専攻・地域公共政策専攻)

最先端の経済学の専門知識と学際性を身につけ、国際的に通用する確かな研究能力と指導力を有する人材を育成する

### 経営学研究科(経営学専攻)

経営学とその関連分野において幅広い専門知識を修得し、企業や公的機関における諸問題に対する解決策を学術的かつ実践的に探究できる人材を育成する

### 会計研究科(会計専門職専攻)

監査業務や税務業務の担い手、政府・非営利部門や民間部門における実務の担い手として、高い職業倫理及び国際的視野を備えた会計専門職業人を育成する

### 経営研究科(経営専門職専攻)

企業経営者や行政職員など地域経営の担い手として、高い職業倫理及び国際的視野を備えた経営専門職業人などを育成する



(学位記授与式)

## 政策科学研究所

進化する政策科学を通じた社会イノベーションを目指す

グローバル化が進む社会経済において、兵庫県を中心とする企業や地域がいかに発展していくのかに関して、科学的に分析し、解決方法を提案しています。



# 流通科学大学

## 建学の理念

流通を科学的に研究教育することを通じて、世界の平和に貢献し、真に豊かな社会の実現に貢献できる人材を育成する。

## 学部・学科・コース紹介

### ■商学部

#### マーケティング学科

##### ブランド戦略コース／流通ビジネスコース

モノやサービスの特性を生産者が市場を通じて消費者に伝える仕組みを学びます。消費者のニーズをつかみモノを売るには何が必要なのか、効率的な物流システムはどうあるべきかなど最新の経済動向を探りながら研究します。

#### 経営学科

##### 経営戦略コース／ビジネスリーダーコース／グローバル経営コース／会計コース

経済活動の中で重きを置かれる企業の活動について学びます。企業の経営戦略やマネジメントを体系的に学び、未来のビジネスリーダーを育てます。起業を目指す人、企業の一員として仕事をしたい人に適しています。

### ■経済学部

#### 経済学科

##### 現代経済コース／地域まちづくりコース

経済を読み解く力を養い、グローバルな視点を持つ経済人を育てます。世界、財政、金融、家計など国際情勢を見据え、世界だけでなく地域にも根付いた視点から経済を読み解きます。

#### 経済情報学科

##### 経済情報コース／情報システムコース

「経済」と「情報」2つのキーワードを結びつけ、経済全体を見渡す力を身につけます。コンピュータのスキルを学び、データを読み解き活用する力を見につけることで、経済を予測し豊かな未来を築く人材を育てます。

### ■人間社会学部

#### 人間社会学科

##### 社会文化コース／心理コース

社会学・心理学を中心に、人間と社会について広く学びます。社会のニーズや生活スタイル、日常生活を豊かにする方法、現代社会における心の動きやコミュニケーションのあり方など、人間社会に起きるさまざまな現象について学びます。

#### 観光学科

##### 観光事業コース／ホテル・ブライダルコース

旅行会社、交通機関、ホテル、ブライダルなどのビジネスモデルやサービスのマネジメントについて知識を深め、オペレーションの実務能力を磨きます。さらに観光産業にとって大切なホスピタリティを学び、高いホスピタリティを発揮し、マネジメントできる人材を育成します。

#### 人間健康学科

##### スポーツ健康コース／スポーツマネジメントコース

健康をキーワードに生活を科学的にとらえます。身体の仕組みや、スポーツの重要性、心身の健康を維持するための知識を習得し、人々が健康であるためにできることは何かを考え、社会に発信する方法を探求します。

### ■大学院 流通科学研究科

#### 修士課程／博士後期課程

現実的思考、具体的理解を修得するための実学系演習科目を配置し、流通科学諸分野の理論及び実践に関する総合的・国際的な教育研究を行い、流通分野で活躍する豊かな学識と高度な研究能力を備えた研究者及び高度専門職業人を養成します。



加盟大学のあらし



## 夢の種プロジェクト

多くの学生が抱える将来に対する不安や迷いを解消し、なりたい自分を実現するため、入学から卒業までの4年間を支援する体制として、「探そう、なりたい自分の『夢の種』」をキャッチフレーズに、「夢の種プロジェクト」を展開しています。それは学生生活の4年間を、なりたい自分を実現するための4年間ととらえ、その4年間でなりたい自分の「夢の種」を、探し、育て、咲かせよう、という3ステップから成り立つプログラムです。

まず「探す」では、入学直後に学生自身のなりたい自分を発見するため「気づきの教育」プログラムを実施しています。幅広い視野をもたせる目的で学部学科の異なる学生が混在したクラスを編成し、一泊二日のコミュニケーションキャンプなどを通じ、仲間づくりとコミュニケーション力の向上を目指しています。さらに卒業生との交流や企業人による講義などを通じ、卒業後の進路を考えることで、学生の主体的な学びへと結びつけています。

次の段階として、「育てる」では、学生自らが考えて学ぶことができるよう「知識教授型」ではなく、「考える学習型授業」を実施しています。その他企業・地域・自治体と協力し、学生自らが調査・企画・提案から商品化や実用化まで行う「社会共創プログラム」、ビジネスリーダーの育成や学生起業などを支援する「起業・ベンチャー型事業承継プログラム」。その他、「マーケティング人材育成」「リテール人材育成」「観光人材育成」など、実践的な学外活動や社会人講師との交流を中心に学生の能力を高めます。そういった経験から、答えのない課題に直面した際も、自ら考え行動できる力を養うことを目的としています。

そして、「咲かせる」では、学生の長所や短所をよく知るゼミの担当教員が就職部と連携し、学生の就職活動を支援しています。さらに産業界との強いつながりを活かした学内企業説明会、就業体験インターンシップ、就職対策宿泊セミナー、模擬面接など徹底した支援体制で、学生の夢の実現に向けてサポートしています。

## 夢の種プロジェクト

- ・探そう なりたい自分の「夢の種」
- ・大学の4年間  
= なりたい自分を実現するための4年間



## ネアカ塾

中内学園創設者の中内功は『学生が自分の個性を伸ばし、自分の学びたいことを、学びたい方法で習得し、それを生涯学習へとつなげる「個性主義」の重視』を標榜し中内学園流通科学大学を創設しました。その遺志を継承すべく、学びたい人へ学びたいことを学びたい時に学んでいただくため、地域住民参加型の身近なテーマと中心とした公開講座『ネアカ塾』を開講しました。2019年で第8回目となるこの「ネアカ塾」では、多方面の企業・団体様のお力添えにより、地域に根ざした公開講座として人気を集めております。

『ネアカ塾』の名称は 中内 功の言葉「ネアカ のびのび へこたれず」から命名しました。この言葉は中内 功が学生たちに向けて言い続けた言葉で、「どこに出ても物怖じすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜く」という意味がこめられています。



## <教育方針>

—人間性豊かな教育・基礎学力の充実と深い専門性を培う教育・国際性を育てる教育—

### 設置目的・特色

日本の高度成長を支える優秀な技術者を育成するため、昭和37年に「高等専門学校制度」が設置されたことを受け、昭和38年に本校は設置されました。「学校教育法の定める高等専門学校として、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、並びにその教育、研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与することを」を目的とし、中学卒業後の5年間一貫教育で、工学に関する基礎的な知識と創造性を合わせ持つ実践的技術者を育成しています。更に5年間の本科（準学士課程）の上に2年間の専攻科（学士課程）を設置し、柔軟で複合的視点に立った思考ができ、問題発見、問題解決ができる創造性豊かな開発型技術者の育成に取り組んでいます。

本校では課外活動も盛んであり、全国高等専門学校体育大会には、近畿地区大会を勝ち上がった多くの学生が出場し、優秀な成績をおさめています。スポーツ以外でも、ロボットコンテスト、ソーラーカーレース、デザインコンテスト、プログラミングコンテストなど工学系ならではの大会に積極的に参加しています。

### これまでのあゆみ

昭和38年4月に機械工学科、電気工学科、工業化学科、土木工学科の4学科からなる「神戸市立六甲工業高等専門学校」設置され、昭和41年4月に現在の校名に変更しました。その後、分科、科名変更、機械工学科にコース制の導入を行い、現在の5学科構成になったのは平成6年4月です。平成29年4月からは、機械工学科のコース制の再編を行いました。

平成2年4月に研究学園都市に校舎を移転し、平成10年4月には専攻科を設置しました。専攻科課程は、平成3年の学校教育法の改正により創設された新たな専門課程で「さらに精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導すること」を目的としています。専攻科設置当初は電気電子工学専攻、応用化学専攻の2専攻でしたが、平成12年4月に機械システム工学専攻、都市工学専攻を設置し、現在の4専攻となりました。平成20年および平成30年にはそれぞれ専攻科設立10周年、20周年の記念行事

を開催し、併せて記念誌を発行しました。

教育プログラムに関しては、平成20年度、27年度に機関別認証評価を受審し、高等専門学校評価基準を満たしているという評価を受けました。特に、「産学官技術フォーラムの継続的実施を含む地域協働研究センターの活動」、「学生による授業評価、教員による自己評価、授業公開による教員相互評価、教職員データベースを用いた評価など多面的な評価システム」、「本科卒業生、専攻科修了生の就職先、進学先」などにおいて高い評価を得ました。

平成29年度からは、神戸創生戦略・神戸2020ビジョンに基づき、「神戸地域に企業集積があり、本市の次世代の基幹産業として今後の成長が見込まれる航空宇宙・医療福祉・ロボット分野の担い手を育成する新たな教育プログラム（成長産業技術者要請プログラム）」を本科3年～5年に開設しました。

### [学科構成]

- ・機械工学科(定員:80名)  
4年次より「ロボティクス・デザインコース」、  
「エネルギー・システムコース」にコース分け
- ・電気工学科(定員:40名)
- ・電子工学科(定員:40名)
- ・応用化学科(定員:40名)
- ・都市工学科(定員:40名)

### [専攻構成]

- ・機械システム工学専攻(定員:8名)
- ・電気電子工学専攻(定員:8名)
- ・応用化学専攻(定員:4名)
- ・都市工学専攻(定員:4名)



校舎全景



## 専攻科紹介

### (1) 機械システム工学専攻

本専攻は、高専本科および短大等の機械系学科を卒業した学生に、さらに2年間精深で広範な専門教育を行うことにより、自らが技術的課題を発見し解決することができる創造・開発型技術者の育成を目指しています。材料工学、熱・流体工学、計測・制御・情報工学、設計・生産工学の分野において、より高度で幅広い理論と技術を修得させるとともに、機械システムを解析的・総合的に捉える能力を養い、社会ニーズにあった技術者を育成しています。



海外インターシップ(インドネシア原子力研究所)

### (2) 電気電子工学専攻

本専攻は、高専の電気工学、電子工学系学科の卒業生に対して、さらに2年間精深かつ広範な専門教育を行うことにより、独創性を持つ研究開発技術者の育成を目指しています。電気・電子工学の発展はめざましく、生活環境を豊かに至便にしてきました。その中心をなすエネルギー・情報関係の新技术の開発はますます重要性を増しています。また、それらを支える材料、電子デバイス、計測、制御などの技術分野の開発も重要となっています。本専攻では、このような科目を適宜配置し、本科での教育を基礎として、より高度な内容を教授し、研究開発能力を育成しています。

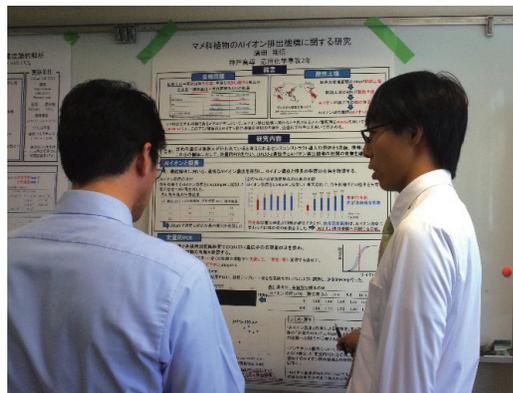


中間発表会(ポスターセッション)

### (3) 応用化学専攻

高専の化学系学科卒業生に対して、さらに2年間精深かつ広範な専門教育を施すことにより、独創性のある技術者の育成を目指しています。化学系技術者を中心とした材料開発は、産業の発展の基礎になっています。それらの技術・研究開発では、化学の専門に加え、他の分野の知識や技術が融合され、成果をあげているケースが多くみられます。本専攻では、本科で修得した専門知識に加え、さらに高度な化学知識や理論を講義するとともに、物理学、コンピュータ関連科目を履修し、本科の卒業研

究に加え、2年間にわたる特別研究を履修することにより、研究開発についての基本的考え方や独創性を育成しています。



中間発表会(ポスターセッション)

### (4) 都市工学専攻

都市工学専攻では、従来の土木工学、環境工学を基礎とし本科で習得した専門知識に加え、防災、水圏・地圏における環境保全、自然や市民に配慮した街づくりに関連する教育・研究を行うことにより、自ら課題の発見・解決できる技術者の育成を目指す取り組みを行っています。なお、都市工学専攻では、2016年4月1日よりJABEE技術者教育プログラム(日本技術者教育認定機構)の認定継続を受け、新たに「土木及び関連の工学分野」の都市工学プログラムを開始しています。



中間発表会(オーラルセッション)

# 公立大学法人 神戸市看護大学

神戸市看護大学は、阪神・淡路大震災の翌年の1996年4月に、地域の保健・医療・福祉に貢献できる看護専門職者の育成を使命として開学し、以後23年にわたり、優秀で実践力のある看護人材を地域に輩出してきました。本学はこうした実績を礎に、さらに発展していくため、2019年4月に公立大学法人として新たなスタートを切りました。



加盟大学のあらし

## <沿革>

神戸市での看護教育は、1959年9月の市立高等看護学院開設にさかのぼることができます。その後、高等看護教育の必要性を背景に、市の基幹病院である中央市民病院の移転に合わせて、1981年4月に市立看護短期大学が開学しました。さらに、1990年代にはいって、看護をめぐる状況の変化の中で市民の保健医療の向上に寄与するために、4年制看護大学設置が強く認識される中、1996年4月、神戸市看護大学が開学しました。

さらに、2000年4月、高度な臨床能力をもつ看護専門職や教育者・研究者・管理者の人材養成に應えるとともに、看護学研究のさらなる推進をめざし、神戸市看護大学大学院が開学しました。

1959年9月	神戸市立高等看護学院開設
1981年4月	神戸市立看護短期大学が開学
1996年4月	神戸市看護大学が開学 神戸市立看護短期大学を短期大学部と改称
2000年4月	大学院看護学研究科博士前期課程を設置
2005年4月	助産学専攻科を設置
2006年4月	大学院博士後期課程を設置
2007年12月	短期大学部閉学
2016年3月	助産学専攻科廃止
2016年4月	大学院博士前期課程に助産学実践コースを設置
2017年4月	大学院看護学研究科博士前期課程にマネジメント実践コースを設置
2019年4月	公立大学法人 神戸市看護大学発足



## <教育理念>

本学は、地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる看護専門職の育成を使命としています。この使命を果たすために、次のような理念にもとづいて教育を行っています。

まず、広い視野と豊かな教養に基づいて、人間を全体として捉える力を育てます。これにより、看護の実践に不可欠な、人間の存在や経験の意味を洞察する創造的想像力が形作られると考えています。

第二に、学生と教職員との日常的な関わりのなかで、学生のいっそうの人格形成を促すとともに、他者との関わりの深化を支援します。これは、自己への信頼にもとづいて、能動的に他者との関係を築くことができ、さまざまな場面でつねによりよい行動をとろうとする倫理的態度が培われることにつながることでしょう。

第三に、看護学の目的である実践への志向性を育み、看護実践に必要な知識や技術とともにそれを支える分析的かつ総合的思考を育成します。これによって、知識や技術を目的に合わせて再構成する力が備わり、創造的想像力や他者と関わる力と相まって、看護実践能力が形成されると考えます。

最後に、先見性をもって地域社会の健康問題をとらえ、主体的に取り組む姿勢を育みます。変化する社会の要請に応えて、多職種と連携しながら、つねに良質なケアと新しい看護システムを探究しようとする志向性へと発展することを期待しています。

【学生の総定員数と入学定員数】

学科等	看護学部 看護学科	看護学研究科		合計
		博士前期課程	博士後期課程	
総定員	400 人	56 人	9 人	465 人
入学定員	1 年次入学 95 人 3 年次編入 10 人	28 人	3 人	136 人

<特色あるキャンパス>

四季折々のハーブの香りが漂う美しいキャンパスには、看護の技術を磨く上での最新設備を整え、快適な学習環境を提供しています。

キャンパスは、5 万平米というゆったりとした広さで、そこに、3 棟の教育棟と本部研究棟、そして、図書館、体育館、学生会館、ホールがゆったりと配置されています。それぞれの建物は、ナイチンゲールの生誕地イタリアのフィレンツェの街並みを基調とし、あたたかみのあるデザインになっています。

最新の教育設備がそなえられているばかりでなく、学生時代をよりゆたかにするために、ステンドグラスやモザイク壁画などで校舎が彩られ、四季の香草が薫るハーブ園や、列柱で飾られた中庭など、こまやかな配慮のこらされている点が本学キャンパスの特徴です。

<地域貢献>

本学では、地域連携教育・研究センターを設置するとともに、地域に開かれた大学をめざしてさまざまな取り組みを進めています。

西区や須磨区と、安全・安心・健康・交流など、まちづくりの各分野において相互に協力し、地域の発展と人材の育成に寄与するため、連携協力に関する協定を締結しています。

また、看護協会との連携により住民のみなさんとともに健康相談や子育て支援などまちの保健室事業を行っています。

その他、思春期ピアカウンセリングやプレパパ・プレママセミナー、看護職向けの公開講座やがん看護インテンシブコースの開講など創意あふれる活動を展開しています。

【教育ボランティア】

本学では、地域住民と共に創っていく新たな看護教育モデルとして、地域住民による教育ボランティアを導入した授業を展開しています。

具体的には、授業のゲストスピーカー、看護技術演習の模擬患者、健康生活支援技術演習で学生が企画・実施する健康教育の模擬受講者、地域における健康生活支援学実習で行う家庭訪問の受け入れ家族などの教育ボランティアとして、地域住民の方にあらかじめ登録していただき、必要に応じて授業に協力していただくシステムを構築しています。教育ボランティアの導入により、学生の多様で実践的な学習が可能となり、教育活動全体の活性化につながっています。

これからも、地域と大学が一体となり、時代の要請に応じた看護専門職者の育成のための教育実践を進展していきたいと考えています。

